



APEX主催「開発とNGO」研究会 機械と人間

● テキスト入手サポートあり

テキストは原則として各自で用意いただきますが、今回のテキストは手に入りづらいものが多いため、参加者の方には事務局で入手をサポートします。ご遠慮なくお申しつけ下さい。
（第3回テキスト『コンヴィヴィアリティのための道具』を除く）。

● 「読解の手引き」あり

今年の研究会のメインテキストである、ルイス・マンフォード『機械の神話』、『権力のペンタゴン』につきましては、大部で読みこなすことが容易でないため、参加者の方々に、わかりやすい「読解の手引き」をお配りする予定です。

今後の望ましい技術のあり方を考える時、それを環境保全や資源節約の観点から論じていくことは比較的容易ですが、人間の疎外や、格差を生み出す構造との関係で論じていくことは、きわめて重要でありながら、欠落しやすいものです。

ロボット、人工知能、宇宙開発などが注目される時代にあって、機械と人間との望ましい関係を、重要文献に学びながら考えます。



研究会のようす

第1回 5月29日(日) 14:45-17:30 会場: JICA東京国際センター 人が人になる時—精神と象徴

テキスト: ルイス・マンフォード『機械の神話—技術と人類の発達』前半、樋口清訳、河出書房新社、1990年。

第2回 6月26日(日) 14:45-17:30 会場: JICA東京国際センター 古代的メガマシンの成立から近代の幕開けまで

テキスト: ルイス・マンフォード『機械の神話—技術と人類の発達』後半、樋口清訳、河出書房新社、1990年。

第3回 7月31日(日) 14:45-17:30 会場: JICA地球ひろば 人間と道具の節度ある関係

テキスト: イヴァン・イリイチ『コンヴィヴィアリティのための道具』、渡辺京二・渡辺梨佐訳、ちくま学術文庫、2015年。

第4回 8月28日(日) 14:45-17:30 会場: JICA東京国際センター オートメーションの時代の人間と労働

テキスト: 中岡哲郎『工場の哲学—組織と人間』、平凡社、1971年。
副読本: 中岡哲郎『人間と労働の未来』中公新書、1970年。

第5回 9月25日(日) 14:45-17:30 会場: JICA地球ひろば 機械化された世界の形成

テキスト: ルイス・マンフォード『権力のペンタゴン—機械の神話』前半、生田勉・木原武一訳、河出書房新社、1990年。

第6回 10月30日(日) 14:45-17:30 会場: 未定 巨大技術の荒野と人間復興への展望

テキスト: ルイス・マンフォード『権力のペンタゴン—機械の神話』後半、生田勉・木原武一訳、河出書房新社、1990年。



● APEXとは

特定非営利活動法人APEXは、1987年の設立以来、インドネシアを主な活動地域として、現地のNGOと協力しつつ、排水処理、バイオマスエネルギー開発、職業訓練などの事業を実施してきました。活動を行うにあたっては、それぞれの地域の状況に適し、環境にも負担をかけない「適正技術」を重視して、現場性のある代案をつくり出すように努力しています。国内では、適正技術人材育成研修、アジアや環境問題等に関する公開のセミナー、「開発とNGO」研究会、スタディーツアーなどを主催しています。

機械と人間

ご参加にあたって

対象者

どなたでもご参加いただけます。企業等の技術者の方や技術に関心のある方、大学等の研究者や学生の方、NGOの方など歓迎いたします。

参加費（※）

APEX 会員：2,500 円、一般：5,000 円（全6回分、資料代込）

研究会の進め方

参加者の中から各回の担当者（要約者、コメンテーター）を決め、テキストの内容の要約とコメントをいただきます。それらをふまえて、参加者の中で自由にディスカッションします。爽りある会となりますよう、テキストは事前に読んできていただきますようお願いいたします。

お申込方法（*）

APEX 宛に、E-mail、FAX、お電話などで直接お申込みいただくか、下記の URL または QR コードからお申込みフォームを送信ください。

<http://www.apex-ngo.org/kokunai/kenkyukai.html>



申し込み・お問い合わせ

APEX 東京事務所（担当：塩原、三木）
〒110-0003 東京都台東区根岸 1-5-12 井上ビル 2F
TEL: 03-3875-9286 FAX: 03-3875-9306
E-mail: tokyo-office@apex-ngo.org

会場のご案内

JICA 東京国際センター
〒252-0066
京都渋谷区西原 2-49-5
TEL: 03-3485-7051

アクセス

京王新線 幡ヶ谷駅下車
南口より徒歩 8 分
地下鉄千代田線代々木上原下車
西口より徒歩 12 分



JICA 地球ひろば

〒162-8433
東京都新宿区市谷村町 10-5
TEL: 03-3269-2911

アクセス

JR 中央線 / 総武線 /
地下鉄有楽町線 /
都営新宿線 / 南北線
市ヶ谷駅下車 徒歩 10 分



- ※ 全6回のご参加を前提としておりますが、1回1,200円（資料代込）のお試し参加も可能です。
- ※ 参加費は、第1回の会場にてお支払ください。
- ※ 定員15名、ただし、5名に満たない場合には中止することがあります。
- ※ 参加者の方には、原則としてAPEXへのご入会をお願いしています。
- ※ なお、この研究会には、APEXが別に主催します「適正技術人材育成研修」の受講者の方も参加されます。

「開発とNGO」研究会とは？

APEX の「開発とNGO」研究会は、今日の世界や、そこにおける問題の構造を深く洞察し、また現状の問題に対する代替案を提起しているような本をテキストとして、その本の内容や読んで感じたこと、考えたことを、参加者で自由に話し合うものです。それを通じて、NGO 活動等の基盤となるような世界観を形成していくことをめざしています。



これまでのテキスト

- 2015年 シリーズ《日本の持続可能な未来を考える》**
宇沢弘文『社会的共通資本』岩波新書、内橋克人『共生経済が始まる』、藤谷浩介/NHK広島取材班『里山資本主義—日本経済は「安心の原理」で動く』、大江正章『地域のカイロ—農・まちづくり』、広井良典『人口減少社会という希望—コミュニティ経済の生成と地球倫理』
- 2014年 シリーズ《成長に依存しない社会をめくって》**
広井良典『定常型社会—新しい「豊かさ」の構想』、柄谷行人『世界共和国へ—資本=ネーション=国家を超えて』、鶴見和子『内発的発展論の展開』、水野和夫『終わらなき危機—君はグローバル化の真実を見たか』、見田宗介『定本見田宗介著作集VII 未来展望の社会学』
- 2013年 シリーズ《世界史の中の近代技術》**
ウィリアム・H・マクニール『世界史』、EFシュマッハー『スモール イズ ビューティフル—人間中心の経済学』
- 2012年 シリーズ《これからの技術を考える》**
デニス・メドウス他『成長の限界』、EFシュマッハー『スモールイズビューティフル—人間中心の経済学』、中野哲郎『土とテクノロジー』、高木仁三郎『科学は変わる—巨大科学への批判』、田中直『適正技術と代替社会—インドネシアでの実践から』
- 2011年 シリーズ《貧困の構造とその克服》**
西川潤『飢餓の構造—近代と非グローバル世界』、スーザン・ジョージ『なぜ世界の半分が飢えるのか—食糧危機の構造』、鶴見和子『アジアはなぜ貧しいのか』、滝澤謙『反貧困—「すべり台社会」からの脱出』、アマルティア・セン『自由と経済開発』、ムハマト・ユス『貧困のない世界を創る—ソーシャル・ビジネスと新しい資本主義』
- 2010年 シリーズ《代替社会を考える》**
イヴァン・イリイチ『「コングリヴィリティ」のための道具』、見田宗介『現代社会の理論』、西野秀三編『日本低炭素社会のシナリオ—二酸化炭素70%削減の道筋—』、竹田青嗣『人間の未来—ヘーゲル哲学と現代資本主義—』、広井良典『グローバル定常化社会—地球社会の理論のために—』
- 2009年 シリーズ《環境・エコロジーの古典を読む》**
リン・ホフスト 『現在の生態学的危機の歴史的根拠』、レイチェル・カーソン『沈黙の春』、デニス・メドウス他『成長の限界』、EFシュマッハー『スモールイズ ビューティフル—人間中心の経済学—』、エイモリー・ロビンズ『ソフトエネルギー—持続可能な平和への道』、イヴァン・イリイチ『シャドウ・ワーク—生活のあり方を問う』
- ～2009年**
西川潤『人間のための経済学—開発と貧困を考える—』、見田宗介『現代社会の理論—情報化・消費化社会の現在と未来—』、中野哲郎『国際協力の新しい風—バウフルいざん奮闘記—』、磯崎淑子『豊かさとは何か』、磯崎淑子『豊かさの条件』、見田宗介『社会学入門—人間と社会の未来—』、加藤博『イスラムvs.西欧』の近代』、猿谷要『アメリカよ、美しく年をとれ』、水野和夫『人々はなぜグローバル経済の本質を見誤るのか』、中野哲郎『日本近代技術の形成—「伝統」と「近代」のダイナミクス』、半藤一利『昭和史 1926-1945』、広井良典『定常型社会—新しい「豊かさ」の構想』、広井良典『持続可能な福祉社会—もうひとつの日本—の構想』、アマルティア・セン『貧困の克服—アジア発展の鍵は何か』、アマルティア・セン『人間の安全保障』、水野和夫『インドネシアにおける新たな発展の方向をもとめて』